

PART 19

～ビーチで水着撮影⑦～

《意識を取り戻した栞。大股開きにされていて悲鳴》

「きゃあああ！ 離してください！」

【警備員】「お前が大声でイッちゃうから、ビーチの他の人たちも気付いて騒ぎ出してゐるぞ」

「誰か通報しちやうねー」 「逮捕かあ、可哀想w」

「そんな、それだけは…」

「この格好でビーチのオーナーに頼むしかないな」

「え？」

「露出狂として全裸で過ごす許可を得るんだ」

「え、そ、そんな…」

《オーナーにTV通話を繋がれセリフを強要される栞》

「初めまして。S学園2年1組の涼川栞と申します。私は露出狂なので発散したいんです、今日は大勢の人に裸を見られて2回イッちゃいました。今日だけ、ここで全裸で過ごさせてください」

『S学園って名門校よね？ お嬢様が自分からこんな格好好するはずないでしょ？ やっぱり通報しないかね』

「本当に私が露出狂なんです！」 (若い女性の声?)

『困ったわねえ。それじゃあ、証明してくれる?』

「証明って、どうすれば…」

『露出狂の変態ってこと、私に納得させてよ』

「彼女がオナニーして見せたら信じてもらえますか」

『まあ、嫌々じゃなければね』

「ほら、やってみろ」

「そんな…いえ、
分かりました」



《おずおずと乳首と股間に手を伸ばす栞》

「ほら、オーナーさんに説明しないと」

「私は人にエッチな姿を見られてる大好き…あ、あん
(信じてもらわないと、警察に突き出されるんだから)」

『へー、栞ちゃんって、本当に変態なのねえw』

《しばらく身体を触って悶えた栞》

「…これで、いかがでしょうか？」

『うーん、なんか本気を感じられないなあ』

「おい、イッて見せるんだ」

「もう、許してください」

『別に私はいいわよ。警察にお任せするだけだし』

「待ってください…あ、あん、あうう」

『あら、変態っぽくなってきたわねw』

「いく時は報告するんだぞ」

「…あ、あつ、あんっ…涼川栞、いきまあすっ…」

《絶頂に達して失神し横たわる栞》

【結花】 『すげーい、栞ちゃん！』

【由愛】 『カメラ前で本気オナニーとかw』

【奈々】 「いつも失神しちゃうんだ、気持ちよさそう」

「同級生の結花さまがオーナーと知ったらどんな顔するかな、栞ちゃんw」

『さてと、最後にもう一恥描いてもらおうわよ』

『ビーチにいる会員全員にサービスしないとねw』

《オーナーに生中継されつつ絶頂を披露した梨》

『ふふ、本当に変態なのね、よく分かったわW
でもビーチで全裸で過ごすなら、他のお客様
全員に許可をもらうことが条件よ』

「全員に許可って…どうすれば？」

『やり方はバレーの子達に任せるわ』

「このボールを後ろに持って」

「え、こうですか…」

「楽しそうに笑って」

「はい…」

「その恰好で歩いて、ビーチの全員にご挨拶するのよ」

「む、無理です！」（それじゃあ本当に変態じゃない！）

「露出狂の変態ですって、皆を納得させるんでしょ？」

「それはそうですね…」（ああ、どうしたらいいの）

「あと、ご自慢の身体も触ってってお願いするのよ」

《抵抗するが、できないなら警察に引き渡す
と言われ命令に従うしかない栞》

「それじゃ頑張つて。大丈夫、このビーチは
会員制で秘密は守ってくれるから」

「はい…」（恥ずかしくて死にそう）

「まずあちらの男性からね」

「はい…」

《男性二人組に近づく栞》

「あ、あの…」

「え、君、どうしたの？」 「なんで裸？」

「あの、私、実は露出狂の変態なんです。今日一日、
この格好でビーチにいてもよろしいでしょうか？」

「まあ、いいけど…」 「すべし恰好だねえw」

「ありがとうございます。あの、それから…」

「それから？」

「よかったら、私の、身体を触って、気持ちよくして
いただけませんか？」 「いい、いやあ…」

「へえ、いいの?」 「触って欲しいんだ?」

「は、はい…」 (いや、触らないで!)

《すかさず手を伸ばす男二人》

「おっぱい柔らかい!」 「太ももすべすべだね」

「ひっ、ひいっ…ありがとうございます」

「触られたらお礼を命令されている栞」

「もう少し脚広げて…綺麗なピンクだねw」

「いやっ…栞のアソコ、よく見てください」

「へえ、本当に嬉しいんだね」 《ぐっと胸を揉み込む》

「あ、あっ、あはあ…」 (ダメ、感じちゃう)

「お尻も触っていいよね?」

「え? あの…あ、ああんっ!」 《尻と乳房を同時に揉

みしだかれ、悶える》

【警備員】 「すみません、お一人30秒まででお願いし

ます」

「ビーチ公認なんだw」 「なんかのゲーム?」

「はい、このお嬢様たつてのご希望で。なお、ボールを
落としたら恥ずかしい罰ゲームが追加されます」

「へー」 「それは見たいな!」 「あ、あん、ダメえっ」

《男二人に責められ、3度目の絶頂に達した栞》

「またイツちやったねw」「肌がぷりぷり」

「はい、まんぐり返しでべっ開帳!」

「うわ、あそこパツクリ」「おしりの穴も丸見えw」

「今日3回目の絶頂です」「ネットで生中継w」

『屋外が癖になっちゃうね、栞ちゃんw』

「また失神とか感じすぎw」「本当に露出狂かもw」

「栞さんの意識が戻ったら、連続お触りショーになります。お一人様30秒、じっくりお楽しみください!」
『ふふ、あと何回イカされちゃうのかな?』

『百人以上の男に裸を見られて触られるってなかなかできないよね』 『露出狂冥利に尽きるねw』

《意識を取り戻した栞。大股開きに悲鳴》

【警備員】「やっと起きた？ ボール落としたから

罰ゲーム追加だよ」《バイブを見せる》

「きゃあっ、いやあっ！」

「今度はそれとボールを落とさずに運ぶのよ」

「両手でボールを掴むので無理です」

「それはアソコに入れて運べば？」

「おおっ」「ケツでもいいよw」

「そ、そんな！」

「え、変態なんだよね？」

「それだけではできません」

「他の方法ならいいんだな？」

「はい」

「じゃあ、ごうしたらどうしゅ〜……」

「え、そんな……」

《口で運ぶことを自分からねだるよう強要された栞》

「涼川栞、バイブをおしゃぶりしながら、素っ裸で男の人たちに挨拶したいです！」

「本当に変態だねえ、ほら」 《栞の口元にバイブ》

「まずはおいしそうに舐めるのよ。カメラ視線でね」
「は、はい…」

「オーナーさんが見てるから、舐めながら挨拶して」

「…涼川栞、おちん○んのおしゃぶり大好きです！」

今日はバイブで我慢します」 《舌を出して舐める》

『呆れたw 私のビーチでは本物は我慢してねw』

「はい」 (いこの声、どこかで聞いたことある?)

《口にバイブを咥え、男たちの間を歩き始めた栞》

「ふふははひほりへふ。はなはへいはへくははい」

《「涼川栞です。裸でいさせてください」》

「こんなに可愛いのに変態なんだw」

「しかも目の前のカメラで中継しながらとかw」

「……」 《究極の羞恥と快感に頭がぼうっとしていね》

《ビーチ全体にスピーカーから声が響く》

『ビーチの皆様。これより、涼川栞さんが全裸許可のご挨拶に皆様をお伺いします。お一人様30秒までお触りOKです。また、ボールかバイブを落とした場合、その場でオナニーショーを披露されるということです』

「十代の可愛い子らしいぞ!」 「触っていいんだw」

「信じられないw」 「オナニー見てあげようよw」

(ひどい、見世物にするなんて……もう許して)

《スピーカーの声を聴いてビーチ中の男が集まる》

「ふふははひほりへふ。 はなはへいはへへくははい」

「本当は水着着用がルールだけどなあ」「こんな可愛い子なら許してあげようか」「俺たちが許さなかったら警察行きかあ」「仕方ないから触ってあげるよ」「オナニーも見てみたいな」

「腰振りながら歩くんだぞ」

「ふあい」 (絶対に何も落とさないんだから…)

《口にバイブを咥え、両手を後ろに回してボールを支える槩。ゆっくりとしか歩けない》

「それじゃあさっそく…むっちりしてるね」

「おっぱい柔らかかい！」

「ん、んぐう、ふあ、ふあめれすっ！」

《乳首を捻られ、尻穴を突かれて悶える》

《最初の二人の快感責めをなんとか耐えた栞》

「お、来た来たw」「よろしくね、栞ちゃん」

「ピチピチで白くてエロい身体だねー」

「あひはほうほはいまふ」 (何でお礼なんか…)

《三人の男が取り囲み、手が栞の双乳と股間に伸びる》

「穴に指入れるのはOK?」

「どちらの穴も第一関節までOKです」

「はへえ!…んふうっ」

「乳首をこうしたらどう?」「はひいー!」

「お尻の穴に入れちゃうよ」「ん、んぐらー!」

「きつそうなアソコ…ちよつとだけ」「い、いひいっ」

《性感帯を同時に責められ悲鳴を上げて悶える栞。

必死に踏ん張り、ボールとバイブを落とさない》

「はい、30秒です」「あーあ、もう少しでイッたの!」

《次の三人がすぐに葉を取り囲む》

「君の感じるところ、もう分かったよ」「ここが感じるんだよね?」「おっぱいはこんな風に揉んで、と」

「あひい、ふあめ、ふあめえ!」《乳房、乳首、尻穴、秘穴、クリオリスを責められ、全身がビクビク震える》

「おお、すげえ」「気持ちよさそう」「ビーチであんなによがるかね」「もうたまらんw」「喜んじやって」

「清楚ですって顔してる癖に」「もう見てられない」「あと10秒です」

「よし、スパートだ」「OK」「おりゃあ!」

「ふあ、ふあめ、ふあめえっ!」

《葉の口が開き、バイブが落ちる》

「やったあ!」「イかせられなかったのは悔しいw」「でもこれでオナニー見れるしw」

《3人への拍手がビーチで沸き起る》

「はい、バイブを落としたので、葉さん、オナニーシヨ―披露の罰ゲームをお願いします」

「え、う、うそ…!」《呆然としてべったり腰を落とす》

「本気でイかなかったら承知しないわよ」

PART 20

～ビーチで水着撮影⑧～

《ビーチにアナウンスが響く》

「栞さんがまたミツシヨン失敗したので、罰ゲームのオナニーショーを開催します。まだご覧になっていない方は是非お集まりください」

《男に促され、全裸で座り挨拶させられる栞》

「私は男の人におっぱいやアソコを触っていただけ、気持ちよくなってバイブを落としてしまいました…罰として、オナニーショーを披露させていただけます」(ああ、どんどん人が集まってくる…録画もされてる…)

《拍手に包まれるビーチ。野次馬の声も聞こえる》

「おお、本当にやってるー!」「すっげえ可愛いじゃん」

「超進学校の「コらしいぞ」「なのに衆人環視オナニー

ショーw」「よくやるわねえ」「本当はAV嬢?w」

「それでは、今日4回目の絶頂ショーをどうぞぞ!」

「もう3回もイッてるんだw」「さいてーw」

《目の前には黒山の人だから。ためらいつつも手を胸と股間に当ててる栞》

「それでは、栞のオナニーをご覧ください…」（ああ、私、大勢の人の前でこんなこと…）

「…あ、あ、あはあ…ん、んんう」（嘘、なんでこんなに気持ちいいの？）

「おお、始めたぞ！」 「触り方がウブだねw」

「喘ぎ声可愛い！」 「今さら可愛い子ぶらないですよ」

「…あ、あ、ああんっ…」

《柔らかく乳首やクリオリスを触っていた栞。なかなかイクことができない》

「罰ゲームを追加します。あと3分でイかなかったら、バイブ挿入シヨールに変更しまーす」

「おお！」 「アソコにバイブ！」 「ふふ、可哀想w」

「そ、そんな！…あ、あんっ、あいい」 《手の動きが激しくなる》

《バイブ挿入の脅しに、手の動きが激しくなる栞》

「あ、ああん…く、くうう…」

「おお、脚はつくり開いた！」 「指2本入れてるw」

「うわ、すごい」「ちよつとやめてよ」「白昼のどー
ちで、変態すぎw」

「あ、いつ、あはあっ」

「あと1分」

《栞の股間からクチュクチュと淫らな音が響く》

「あ、ああん…く、くうう…」

「うわ、エロっ！」「おっぱいも震えてエッチw」

「女の恥ね」「もう見てらんない！」

「イク時は事前に報告しなきゃ認めないぞ」

「あ、あっ、あああ…栞、イッちゃいますー！」

《絶頂、失神した栞。ニヤニヤするギャラリィ》

「残念、3分3秒だったので罰ゲームだな」

「おお、栞ちゃんの初体験！」 「かわいいそーw」

「そ、そんな…お願いです、許してください。他のことなら、なんでもしますから」 《涙目で懇願》

「…仕方ないな。とりあえず、口で啜えてもらおうか」

「はい…」 《再びバイブを啜える》

「おしゃぶり顔も可愛いw」

「啜えるの大好きだねw」

（こんなの好きじゃないのに…）

「バイブは許す代わりに、これを入れてもらおうか」

「んへ？」

「ローター知らないの？」 「露出狂の変態なの？」

「今更ぶりっ子しても無駄でしょw」

「栞ちゃんには、本日最後までローターを下の口で啜えてもらいます。落としたらバイブ挿入に変更です」

《しばらく抵抗したが結局逆らえない梨》

「ローターは、ビーチのお客様に入れてもらおう」と

「はい…」 《くぐもった声でなんとか話す梨》

【VIP会員】 「じゃあ、四つん這いになって」

「はい…」

「脚を大きく開いて、

両手でアソコを

ぱっくり開いて」

「……」

(もう消えたい…)

「ほら、お願いして」

「しおりのあそこにいれてくらはい」

「それじゃあ入れるよ！」 《肛門に先端を入れる》

「ん、んんー！ ち、ちがいますっ」

「え、これは何？」 《おしりのあな、です……》

「アソコ」じゃ分からないよ、どこに入れてほしいの?」

「…しおりの、おまのうにいれて、ください」

(ひどい、わざと言わせるなんて)

「あー、おのんこね、ここかな?」 《クリオリスへ当て

て、細かく震わせる》

「きゃ、きゃあつ、

だ、駄目えっ!」

《口を開きバイブ

を落とす葉》

「あー落とした!」 「バイブをアソコに挿入決定!」

「ごめんなさい、許してください!」

「本当に仕方ないな…こう言って詫びるんだ!」

「葉はクリオリスでイくのが大好きなドスケベです。感

じすぎてごめんなさい……」

《挿入する客を交代。別のVIP会員に。口でのバイブ
啜えは一旦免除》

【VIP2】「栞ちゃん、部活は何してるの？」

「新体操です」

「じゃあ、Y字バランスの恰好してよ」

「そ、そんな…」（新体操を侮辱するなんてひどい）

「お客様の命令は絶対だぞ。いやならバイブ挿入な」

「わ、分かりました…栞の、お〇んこの、ちつに、ロー
ターを、入れてください…」（恥かしくて死にそう）



「おお、身体柔らかいねえ」 「バランス感覚すごい」

「ぷるぷる震えてる」 「嬉しいのかな？」 「新体操を裸
でするの想像して感じてるんじゃないw」

「それじゃあ、中に入れるよ」

「お願いします…あ、ああ、あはあ」

「そんなに揺れないでよ」 《膣口で出し入れする》

「あ、あひい！ ああん…も、もっと奥に入れて！」

「エロすぎw」 「普通、言わないよねえw」

《何度も出し入れされ、Y字バランスが崩れてしまう》

《挿入役交代。実は葉を順番に弄んでいるだけ》

「VIP3」 「立ったまままで身体を曲げて、両手を膝の後ろで組んでお尻突き出してくれる？」

「は、はい……」（いやあ、こんな格好）

「その恰好で、こっちを見て、お尻を振りながら、分かりやすくお願いしてくれる？ あ、フルネームで」

《顔を真っ赤に染めたまままで作り笑いを浮かべ、ぎこちなく尻を振り始める葉》

「…涼川葉の、おんこの、ちつの奥まで、ローターを、入れてください」



「ミスコンなのにど変態w」 「ピンクの褌まで丸見えw」

「AV女優でもこれではできないw」 「呆れたあ」

《警備員のインカムに指示が聞こえる》

「結花」 『ふふ、いい気味ねえ……もうその辺でいいわ、奥まで入れて、うんと感じさせてあげて』

「奈々」 『おもしろかったあ。学校で会うのが楽しみw』

「由愛」 『クラスの男子の前でも露出させてあげるねw』

《バイブを口に咥え、ローターを秘裂に入れてビーチの観客に露出狂の挨拶をさせられた栞。身体中を触られて感じさせられてバイブを落とし、その度にオナニーシヨールを披露》

「お疲れさん、これで全員に挨拶が終わったぞ」

「はい」（やっと、終わった…）

「栞ちゃん、お疲れー」 「おっぱい柔らかいね」

「お尻もぷりんぷりんw」

「乳首とクリが感じるんだねw」

「イキ声可愛い！」

「……」（もういやあ！）

「あの、もう終わりですよね？ 服を着させてください」

「おっと、許可があるまで言うとおりにしないと、服は返さないよ」

「そ、そんな……早く、お願いします」

「最後に撮影タイムをしないと。みんなが君の写真を撮りたいってさ。露出狂なんだからいいよな？」

《黒山の人だからの前に立つ栞。屈辱の口上を命令され、脚が震えている》

「皆様、本日は涼川栞の露出シヨールにお付き合いくださり、ありがとうございます。最後に撮影タイムです。皆様、ご自由に私の身体を撮影してください……」

「サーブスいいねえ」「さっきは触るのに夢中だったから嬉しいな」「制服のリボン付けてよ」

「え、それは……」（学校の制服はダメ！）

《小声で厳しく叱られた栞》

「……私立S学園2年1組の涼川栞です。」

リボンだけの全裸姿、嬉しいです」

《強要されてダブルピース》

《ビーチにシャッター音が響き、フラッシュが光る》

「おお、あの名門S学園！」「全裸より興奮するなw」

「でも表情硬いよ」「皆の前で裸で嬉しいんだよね？」

「はい、嬉しいです」「じゃあどうも笑ってー」

「皆様、撮影した画像の拡散は厳禁です。それ以外はご自由にご使用ください」

《次のリクエストは制服着用。ただしノーパンノーブラ。自発的な露出狂のセリフを強要される梨》

「私、涼川梨は、今までまじめな優等生のふりをしていましたが、本当は露出狂の変態です……」

「そうなんだー」 「学校ではお上品な制服姿なんだね」

「ここでは好きにしているよー」 「もっと楽しそうなおポーズしてー」 「もっともつとー」

「はい、楽しいですー！」 (恥ずかしくて死にそう)



《次々と要求されるエッチなおポーズに応え、全て撮影されてしまった梨》

「全員の方、梨ちゃんの身体は撮れましたか？」

「はい」 「おっぱいもお尻もアソコも超高精細でw」

「…あの、これで終わり、ですか？」 (早く終わって)

「いや、最後に皆と記念撮影しないとね」

《警備員の指示で、4人ずつ栞と記念撮影。最初の4人はY字バランスでバイブ啞えをリクエスト》

「皆ふあま、今日はありがとうございまひた…」

「やっぱりバイブ啞えが似合うねえ」「制服姿でおっぱいとアソコ丸出し、最高にかわいいよ」

「…ありふあとう、ごはいまふ…」

「それでは撮りますよ、笑ってー!」

(嘘よ、こんなの現実の筈ないんだから…)

《次々に恥辱の記念撮影をされる栞の姿を、モニター越しに眺めて盛り上がる3人の女子》

【結花】 『見て、この顔! ぼうつとしちやつて…よっぽど気持ちいいのね』

【奈々】 『本当に露出狂みたいね、栞ちゃん』

【由愛】 『さて、学校での計画を詰めましょ』

『あ、またいきそうw』 『あはは、これで10回目?』

《画面の中では、記念撮影のポーズリクエストという名目で栞の身体を男たちの手が這いまわり、栞はバイブを啞えたまま、快感に悶えている……》

PART 21

～学校で露出命令①～

《その日の夜。カメラマンの須藤からの電話が着信》

『今日は撮影お疲れさん、ちよつと災難だったな』

「災難って…私を残して逃げるなんてひどいです！」

『ごめんごめん。でもいい写真撮れたから許してくれよ』

「お願いします、恥ずかしい写真は破棄してください」

『もったいないなあ…これなら公開してもいいよな？』

《葉のPCに画像が送信される》

「いやっ、だめですっ！」



『あれ、俺の指示には従う約束だったよな？ 逆らった

ら、裸の写真も公開しても文句言わないってな』

「そうですけど…お願いします、これは許してください」

『まあいいか。ところで、あれからどうしたんだ？

うまく逃げ切れたのか？』

「えっと、その…はい、なんとか」（もっと恥ずかしい

格好にされて、大勢の男の人に触られて感じさせられ

て、写真撮られたなんて、絶対言えない…）」

『へえ、あの状況で逃げ切ったの？ 本当に？』

「…は、はい…」

『ほう、そうか…それじゃあこれはなんだ?』
《もう一枚画像を送信》

「え?…きや、きやあつ!」
『すっぽんぽんでバレーボール2個持ちでにっこりか…
君、本当は露出狂なんだなw』

「ち、違うんですっ」

『これはあの子の後の写真だよな? 君は逃げ切れずに捕
まってる、こんな写真を撮られたんだな?』

「えっと、あの、それは…」 (ああ、どうしたら?)

『嘘をつかれたんじや信頼関係が継続できないな。契約
を破棄してこの画像を公開させてもらおうか…』
「嘘をついてすみませんでした! 正直に言いますから、
それだけは許してください」

『もう一度嘘ついたら容赦しないからな。それじゃあ、
あの子の事を全部正直に話すんだ』

「はい、分かりました…」



Notebook

《全裸でビーチを逃げたが警備員に捕まり、須藤たちのことは話さず自分が露出狂だと話し、証明として全裸でバレーボールをさせられたこと、が全部だと説明》

『あはは、そりゃ大変だったな。でも、俺達のことを話さなかつたのは偉いぞ…でも、この画像はなんだ？』

「きゅ、きゅあつー！」

『男たちの前で股開いてケツ突き出して、オツパイ揉まれて、アソコに指突っ込まれて感じちやつてるこの状況…わざと説明しなかつたよな？』

「いやあつ、お願いします、削除してください」（そんな恥ずかしいこと、言えないに決まってるでしょ）

『この動画もあるんだが…いい声で感じるね、君w ミスコンの画像と合わせて売ったら大人気になるよ』
「すみません、恥ずかしくて言えなかつたんです。お願いです、もう一度だけ、許してください」

『もう一度は無いって言ったはずだぞ…罰は保留にしてやるから、今度こそ全部話してみろ』

「はい…」（言うしかない…）

《葉はたどたどしい口調で、さっきまでの説明に加え、露出狂の証明として全裸ブリッジをさせられ、ローターでイカされたことや、バレーボールを持って男たちの間を歩かされて触られたこと、ビーチのオーナがリモートで見ている前でオナニーさせられたこと、バ イブを口に咥えローターを秘部に入れられて歩かされたこと、ローターを落とす度にオナニーさせられたこと、など思いつく限りを説明》



『あはは、大変だったな！』

合計何回イッたんだ？』

『あの…10回、みたいです』

『気持ち良くてアソコ濡らしたのか？』

『…ぐしょ濡れと言われました』 (もう消えたい…)

『ふん、やっと正直になったみたいだな』

『それでは、嘘は許してもらえますか？』

『いや、何もなしって訳にはいかないな』

『え、それじゃあどうすれば…』

『今から、ストリップでもしてもらおうか』

『え？』

『だから、一枚ずつ脱いで、素っ裸になつて見せろ』
「だけど、家族が入ってきたら…」（無理よ、許して）
『入れなきやいいだろ。制服を着て、鏡の前で一枚ずつ脱ぐんだ。スマホで実況中継しながらな』
「そうすれば、許してもらえますね？」（須藤さんにはもつと恥ずかしい動画まで見られてるんだし…）
『ああ。ただし、大勢の客に見られてるつもりで、露出を楽しんでいるセリフを言いながらだぞ』

《制服姿になつた栞》

「皆様、S学園2年の涼川栞です。これから、ストリップをしますので、どうぞご覧ください」（前はお尻を出しちゃったけど、今日は裸…）

『担任の先生に見てもらおうつもりで、名前を言え』

「…佐藤先生、栞の裸、見てください」（いやあっ！）

【佐藤】（おお、涼川が俺の名を呼びながら脱ぐ！）

《上着とシャツを脱いだ栞》

「今日のブラは黄色です……可愛いですか？」

『いい感じだぞ。学校のクラスの男子に見られてるつもりで話しかけてみる、こんな風にな……』

「クラスの男子のみんな、見てますか？ 涼川栞はいつもは真面目そうな顔してるけど、本当は男の子に裸を見られるが大好きなんです。よく見てください……」



『顔が引きつってるぞ。露出狂ならもっと笑え』

「は、はい……」 《必死に作り笑いをする》

「栞の同級生たち」（おお、制服ストリップ最高！）
（ビーチの全裸シヨも最高だったけど）（クラスの男子全員で見てるよーw）

《スカートを脱いで下着姿になった梨》

「皆様、今日はパンティも黄色です」

「隣の席の男子の名前を入れてこう言うんだ…」

「杉本くん、私のお尻、可愛いかな？」（いや、恥ずかしい！）

「杉本に向けてお尻をエロく振って見せろ…」

「杉本くん、こんなのどうか…興奮する？」

《ぎょちなく尻を振り続ける梨の姿にクラスメイトの男子たちが盛り上がる》

（梨ちゃんが俺に向けてケツ振ってるw）（いいなあ、杉本）（最高のオナペットw）（いつもお上品な涼川がごこまでしてくれるなんてw）

『よし、次はブラを脱いでオッパイを見せろ』

（きたー！）（さんざん見たけど興奮するなw）

《ブラを脱ぎ、パンティ一枚になった栞。両手で胸を庇って恥ずかしがっている》

「脱ぎましたけど、やっぱりこれ以上は無理です…」

「何言ってるんだ、ストリップなんだから全部脱ぐのが当たり前だろ。手を離して胸を見せろ！」

「は、はい…」 《恥ずかしそうに腕を下す》

『もっと堂々と！ 右腕を後ろに回して左腕を掴めで、ごう言っただ…』

「は、はい…」

「クラスのみんな、栞のオツパイ、じっくり見てね…
今度、この格好で朝のクラス会の司会したいな」

（涼川のおっぱい…）（自室で脱いでるのもエロくていいな）（生中継でクラスの男子全員に見られてるなんて可哀想w）（優等生のクラス委員なのにw）（くー、生で見たいな）（教室で見られたら最高のんだけど）

《パンティも脱がされてついに全裸になり、両手で双乳と股間を押さえて立ち尽くす葉》

「涼川葉、自分の部屋で素っ裸になりました…」

『お上品だな。ストリップなんだからしゃがんでがばつと足を開いて見せろ』

「そ、そんな…はい」（ああ、仕方ないのよ）

『おい、手で隠してどっしりする…』

「ちよつとこれ以上は、許してください…」

『ビーチで大勢の前で10回絶頂した露出狂なんだろ？』

「は、はい…」（ひどい、いくら逆らえないからって）

『逆らった罰として、もっとエロいポーズをしろ…』

「指でアソコをばっくり開いて奥まで見せるー!」

「え、そんな!」 「できないのか? それなら…」

「分かりました!」 (須藤さんには全部見られてるんだから…)

「え、これでいいですか…」 (いやあ、こんな格好!)

「そのまま、笑顔でクラスに男子にぐあいさつ!」

「涼川栞の、おま○こは、綺麗なピンクです。男子のみんな、奥までよく見てね…ひい!」

「よし。最後にマコウ言うんだ…」

「涼川栞は、ぐ覧のとおり露出狂の変態です。明日から、ノーパンノーブラで学校に行くことを誓います…」

(アソコ)ばっくりw) (ピンクの褌まで覚えた!) (明日の学校が楽しみ!) (やっぱ生で見たい) (教室でストリップ希望w) (オナニーショーもよろしく!)

使用したプログラム・素材等

- 本作品は、ILLUSIONの「ハニーセレクト ～コンプリートパック～」を使用して作成しています。 (http://www.illusion.jp/preview/honey_party/index.php)
- また、イリュージョン公式ページに投稿のキャラデータやシーンデータを活用しています。その他、個人HPに掲載の服なども使用しています。各作者の方に感謝いたします。
- 本作品のコンテンツの著作権は ILLUSIONに帰属し、販売等は認められていません。転載・販売等を行わないようお願いします。